２０２０年の全国子ども会育成者研究大会が延期となり、道の育成研も共済のため単独開催の準備を進めていなかったため、交渉を進めていた本橋麻里さんの講演会のＺＯＯＭ講演を開催いたしました。

当日は２５市町村から１０６名の参加をいただきました。

演題は「０から１を作る～地元で見つけた、世界での勝ち方」と題いて前半部分は本橋さんのカーリングへの取り組みの歴史がピョンチャンオリンピックまでお話しされました。

特に、オリンピック前に出産され、家族・育児から学んだ事は子育てをしなかったら選手として変われなかったという思いがある。一人の時間が当たり前から、家庭・育児の時間が優先で自分は二の次になり、時間的な優先順位を考える決断力が育児から学べたこと。一人では子育てが出来ないので保育所の先生には、特にメンタルサポートをしていただきさらに、親類、チームメンバーのお母さんなどに助けてもらえた事は他人に甘えることが苦手な本橋さんにとって自分の成長につながったとのことでした。

後半は、ディスカッションを行い道子連に長く事業のお手伝いをいただき、北海道子ども会検討委員会の座長をお願いしている、厚真町立厚真中学校の阿部校長先生にファシリテーターをお願いいたしました。

阿　「０から１をつくる」という著書のタイトルにもありますが、挑戦が出来ると自分が思えたのはどういうところからでしょう

本　何か悩むと「人生は一度きりだ」と思う。自分がやりたいことをやって失敗した人生と、選ばなかった人生ならチャレンジしたいと思う。

　　理想は海外の女性アスリートのように柔軟な選択肢があって、日本はまだなので少しずつ環境が変わればと思った。

阿　子ども会も組織維持に苦労されておりますが、著書の中で「自分で動く」とあります。気づいたことはありますか

本　待っていても状況は動かない。与えられたものを自由にできる環境もある。未来の大人になる子どもに皆さんの活動が響いていくと思う。

会場から

帯広　　コミュニケーション能力の苦手な子が多いのですが、本橋さんが気に掛けていることやコーチから言われたことは何かありますか

本　　　日本は年功序列ですが海外はないのでミーティングが活発。小さい時からディベートの練習をしていて自分の意見を言っている。日本は意見を出さないし、コーチに反論してはいけない文化が残っている。

　　　　チームの中で自由に発言できるように意識した。プラスな言葉使いを意識し、チームミーティングを行った。

苫小牧　若い選手の育成はどのようにしていますか

本　　　北見市に２つ目のカーリングホールが出来ます。学校の授業でもカーリングをしますし、素質のある子どもはほかのスポーツもやっています。両立してやることがいいと思います。

　　　　また、小さい時は色々な大人が関わることが大事です。

　　　　キッズスクールをやったときは、今持っている才能を褒めるようにしています。

阿　著書の中で「待つこと」の重要さに気付いたとありましたがその辺についていかがでしょう。

本　子どもが転ばないように先に手出しをしてしまう。今の親のあるあるを私もしてしまいました。

　　　　自分の子育てでラッキーだったのは地域で子育てできたことです。チームメンバーのお母さんだったり育児のプロである保育士のアドバイスを沢山いただいたり、悩みを共有したり。昔から知っている地元の方や、遠征先の宿泊施設の方など多くの方が子育てに関わってくれました。

　　　　子どもはお母さんの奴隷ではないので、ひとりの人格として尊重してあげて、１回待つと面白いリアクションが見られるといわれた。チームでも待つと中から色々とアイデアが出て良い目標が出来ます。

阿　重要なお話でした。子ども会の組織は５０年を過ぎていますが、子どもの育ちを地域で担う。親の育ちも地域で担うことが重要です。一人で子どもを育てなければならない状況がお母さんを苦しめています。本橋さんのように地域の方々が関わることが大切です。

会場から

紋別　子どもたちが目標を持つためにどのように大人がアプローチすればよいのでしょう

本　　大きな目標を与えられると息が切れます。しなければいけない義務が、一番抜け出せない陥　　　　る状況です。子どものチームでは大会に向けて普段の生活で身近なことでちょっと頑張ること、ちょっと工夫することを目標として行動させて、クリアした達成感を味わってもらう。そうして一度達成すると次につながります。

　　　また、常に気にしてあげる事が重要で、しっかり「気にしてみている」と相手に認識してもらう事が大人には重要です。

紋別　子どもたちにやらなければいけないと思わせる指導者になるために必要なこと

本　　聞き役になることです。そののち信頼関係が出来たら本質にふれていく感じです。最初は否定しない。プライドを傷つけないように気を付けます。今の子は警戒心が強く、味方を探しているのでまずは信頼関係を築くことです。

最後に

阿　子どもを育てる環境をどのように作っていくか。学校、家庭、以外の環境が大切だということが改めて確認できました。

本　大人の想像以上の力を子どもは持っています。スポーツを子どもの成長のため、また信頼関係を築くために利用してほしいと思います。

阿　貴重なお話をありがとうございました。